

Lead the Digital Transformation →

# 2017年3月期 第2四半期 決算ハイライト

(決算記者会見 配布)

2016年11月7日  
株式会社 **クレスコ**

## ❖ 第2四半期の実績

- ・ 競争力に直結するイノベーションを志向する企業の戦略的なIT投資の勢いは衰えず、デジタル革命の潮流が後押し
- ・ リカバリー施策を行うも、事業分野別、子会社毎の業績は、まだら模様の状況を払拭できず、前年比**増収減益**

## ❖ 第2四半期のトピックス

- ・ 9月1日付で、旅行業向けシステム開発を手掛ける「(株)エヌシステム」を子会社化
- ・ 9月9日付で、自己株式の活用プログラム「TIP・2014モデル」を終了
- ・ 人工知能を活用した画像診断の共同研究を名古屋市立大学大学院医学研究科視覚科学分野と行い、11月14日に論文発表
- ・ クレスコ本社を増床し、フューチャーセンターを設置

## ❖ 今期の通期見通し

- ・ 当初(5月9日)に発表した業績予想・配当予想から**変更なし**

[単位：百万円未満切捨]

## ▶ 経営成績

			前年同期比		
⌘ 売上高	...	147億40百万円	↑	9億20百万円	106.7%
⌘ 営業利益	...	11億31百万円	↓	▲ 76百万円	93.6%

セグメント別売上高	ソフトウェア開発事業	金融・保険分野	61億12百万円	↑	2億76百万円	104.7%
		公共・サービス分野	30億75百万円	↑	1億62百万円	105.6%
		流通・その他の分野	29億27百万円	↑	2億47百万円	109.2%
組込み型ソフトウェア開発事業		通信システム分野	2億88百万円	↓	▲ 1億48百万円	66.0%
		カーエレクトロニクス分野	10億46百万円	↑	70百万円	107.2%
		情報家電等・その他の分野	12億44百万円	↑	3億15百万円	134.0%
商品・製品販売			46百万円	↓	▲ 3百万円	93.4%

## ▶ 財政状態

⌘ 総資産	...	191億95百万円	↓	▲ 34百万円 前期末比
⌘ 自己資本比率	...	66.2%		前期末 63.3%

---

# ① 2017年3月期の取組み

---

# たゆまぬ「信頼と成長」のために

大きく！ 繋ぎ！ 超える！

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

## CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation

～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝く **クレスコ**

1. ビジネスのスピードアップ
2. コア事業（システム基盤、アプリケーション開発、組込み）を組合わせたビジネスの推進
3. デジタル変革をリードする先端技術の研究、拡大（AI、Robotics、IoT）
4. 品質、生産性の徹底的追求
5. サービスビジネスの推進
6. グループシナジーの強化およびM&A、アライアンスの推進
7. 大規模・複雑化・多様化する課題を解決するスペシャリストの育成  
およびスキル強化
8. 開発体制の拡充（ニアショア、オフショア、ビジネスパートナー）
9. 積極的な情報発信（PR、IR）
10. グループガバナンス及びコンプライアンスの強化

## 「CRESCO Ambition 2020」および対処すべき課題を踏まえて

### 1 組織関連施策

- 意思決定の加速およびコア事業の相互連動を実現する、大規模な組織再編
- 大規模プロジェクトに対応する、デリバリーセンターの設置
- 未来技術の追求を実現する、AI & ロボティクスセンターの設置
- グループ連携を強化する、グループ事業推進本部の設置

### 2 技術関連施策

- システムインテグレーション事業のデジタル化
- 知的財産の蓄積、管理および活用の推進
- クラウドビジネス拡大へ向けた事業再編
- 機能安全(高信頼性技術)ビジネスのマーケット拡充
- マーケットイン型ビジネスへの投資

### 3 その他施策

- 多様なスペシャリストを育成する人事制度、育成制度の改革
- 事業、自社サービスのプロモーション強化、広報/IR活動の充実
- コーポレートガバナンス体制の強化およびコンプライアンスの推進

平成28年7月29日

各 位

## 【目的】

複数の旅行会社のシステム開発を行っている当社と連携し、  
今後拡大が期待できる旅行業向けシステム開発を拡大

(TEL 03-5769-8058)

## 株式会社エヌシステムの株式取得（子会社化）に関するお知らせ

当社は、平成28年7月29日開催の取締役会において、株式会社エヌシステムの全発行済株式を取得し、子会社化することについて、株式譲渡契約を締結する決議をいたしましたので下記のとおりお知らせいたします。

### 1. 株式取得の理由

当社企業グループは、複合IT企業として、株式会社クレスコを親会社とし、現在、子会社9社（海外子会社1社含む）、持分法適用会社4社の体制となっております。各社の有機的な連携により、企業のIT戦略立案から開発、運用・保守まで、幅広いニーズにお応えしております。

株式会社エヌシステムは、JA（農業協同組合）グループの旅行事業を担う株式会社 農協観光（Nツアー）の出資により、「旅の情報発信基地」として、1982年に創業いたしました。旅行業をはじめとする多種多様なフィールドで、コンサルティング、設計から運用まで幅広いソリューションサービスを提供しております。今回の株式取得は、今後、需要の拡大が期待できる旅行業向けシステム開発の拡大に寄与し、クレスコグループにおける企業価値の更なる向上に資するものと考えております。

今後も、グループ各社の持つ販売チャネル、テクノロジーを活かし、お客様のコアビジネスをサポートする付加価値の高いソリューションサービスを実現するとともに、その総合力を発揮してビジネスの





平成28年8月9日

各位

会社名 株式会社 クレスコ

代表者

問合せ

**【目的】**

株主還元の一環として、残りの新株予約権を取得して償却

**自己株式を活用した第三者割当による第2回および第3回新株予約権  
(行使許可条項付・ターゲット・イシュー・プログラム「TIP・2014モデル」)の  
取得および消却に関するお知らせ**

当社は、平成28年8月9日開催の取締役会において、平成26年11月28日に発行いたしました第2回および第3回新株予約権（以下、「本新株予約権」といいます。）につきまして、下記のとおり、平成28年9月9日付で本新株予約権の全部を取得し、取得後直ちに本新株予約権の全部を消却することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

1. 取得および消却する新株予約権の概要

(1) 第2回新株予約権の概要

① 割当日	平成26年11月28日
② 新株予約権数	500,000個
③ 発行価額	総額350,000円(1個当たり0.70円)
④ 新株予約権の目的である株式の種類と数	当社普通株式500,000株(新株予約権1個につき1株)
⑤ 新株予約権の残存数	150,000個

平成28年11月1日

各 位



### 【目的】

当社「技術研究所」の新技术実装に向けた取組みの一つとして、人工知能を、眼科領域における画像診断の補助に活用

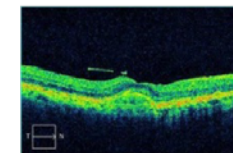
(TEL 03-5769-8058)

## 人工知能を用いた眼科の画像診断に関する学会発表のお知らせ ～名古屋市立大学大学院医学研究科との共同研究の成果について発表します～

株式会社クレスコ（本社：東京都港区、代表取締役社長：根元 浩幸、以下 クレスコ）の技術研究所と、名古屋市立大学大学院医学研究科（所在地：名古屋市、医学研究科長：浅井清文）は眼科領域における画像診断の補助に活用する人工知能システムの共同研究を実施し、11月14日（月）の電子情報通信学会において研究成果の論文を発表いたします。

名古屋市立大学大学院医学研究科視覚科学分野では、病院内に「アイセンター（センター長：小椋祐一郎教授）」を平成28年4月1日に設置し、より高度な医療を提供することを目指しています。今回の共同研究は、眼球内部の網膜の断層面を撮影する光干渉断層計（OCT）（※1）の画像を人工知能で解析し、眼底疾患に関する医師の診断の補助となる情報を提供する技術開発を目的とするものです。この技術の確立により、医師の正確かつ迅速な診断のサポートと、疾患の早期発見による患者のQOL（生活の質）向上に大きく貢献できるものと確信しております。

（※1）光干渉断層計（OCT）とは、光の干渉性を利用して、非侵襲かつ短時間で角膜、虹彩、網膜の断層画像を撮影する検査であり、眼底疾患の病態把握と治療効果の評価には欠かすことのできない検査です。しかし、OCT画像を適切に取り取り正確な診断を付けるためには医師の技術と経験の蓄積が必要とされています。（右図：眼底の断層画像）



## ■ クレスコの本社を増床し、フューチャーセンターを設置

クレスコ本社は、品川インターシティの25階全フロア、26階全フロア、27階半フロアを使用しておりましたが、今夏から27階を全フロアに増床し、フューチャーセンターを新設しました。

また、増床工事に伴い、本社内を全面リニューアルしました。

- お客様をお迎えするエントランスと応接室を拡張し、落ち着いてお過ごしいただけるように高級感のある雰囲気へ改装
- 社員が過ごす執務室を、機能的に改装
- 27階の増床エリアには、入社式やセミナー等を実施できるプレゼンテーションスペース、最新の技術に触れることができるデモンストレーションスペース、社員のコミュニケーションスペースを新設



---

## ② 決算ハイライト

## ■ 日本経済

- 熊本地震やイギリスのEU離脱問題にはじまり、消費の低迷や円高、マイナス金利など、国内の懸念事項が相次ぎ、先行きの不透明感から、企業の投資が慎重姿勢に転じるなど、経営環境は、踊り場

## ■ 情報サービス産業

- 第3のプラットフォーム（クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術）、AI（人工知能）、ロボティクス、IoT、セキュリティ（標的型攻撃の防御やマイナンバー対策）への関心が高まる
- 特に、クラウドとモビリティに関する領域は、パブリッククラウドやモバイル端末（スマートフォンやタブレットPCなど）の普及を背景に、検討する企業が増加

## ■ クレスコGroup

- 競争力に直結するイノベーションを志向する企業の戦略的なIT投資の勢いが、デジタル革命の潮流を後押し
- 受注量の維持・拡大および市場の変化に対応したサービスの開発、先端技術の取込みに的確かつスピーディに対応すべく、開発体制の強化（人材の確保、育成等）、品質管理、グループ間連携に注力
- 先端技術の研究（特に、AI、ロボティクス、IoT）、新規事業の創出、各種サービス・ソリューションの拡販等に努める

セグメント

ソフトウェア開発  
組込みソフトウェア開発  
製品・商品販売

クレスコは  
パートナーです。







IBM Watson  
Ecosystem Partner



CRESCO	●		業種	金融	公共・サービス	流通・その他			
				メガバンク、生命保険向けのシステム開発が堅調に推移	運輸関連で、一部赤字プロジェクト有り。旅行、人材サービス関連は順調。	新規受注も含め、案件多数有り。プライム案件、ベンダー案件とも順調。			
				クラウド	クレンジュ [AWSベースのクラウドソリューション]	クラウド	インテリジェントフォルダ [オンラインストレージサービス]	IoT	KEYAKI [IoTシステム基盤]
				人工知能	Watson連携サービス 受注増 体制強化 大型企業向け Watsonシステム提供モデル策定	ロボティクス	まるロボ [ロボットプラットフォーム]	ロボティクス	Pepper関連サービス ロボットアプリケーション開発を推進 外部企業とのビジネス連携促進
	●		分野	通信システム	カーエレクトロニクス	その他			
				デジタル通信端末(スマートフォン)の開発規模が逡減	大手メーカー向けの車載系システム開発が引続き牽引	デジタル情報家電(カメラ、ビデオ、テレビ)が好調、医療分野(マルチメディア)拡大に注力			

※ 記載している商品名は、各社の商標または登録商標です。

			セグメント		
			ソフト	組み込み	製品
	クレスコ・イー・ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 企業の構造改革実施中。第1四半期のリカバリー実行するも、目標は未達</li> <li>◆ 退職対策、採用計画が不調</li> <li>◆ 販促活動を行うもソリューション事業（製品）が低調</li> <li>◆ 【課題】人材の確保、JOBローテーションと単価アップ、ソリューション事業の拡充</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         2016年4月1日付で「エス・アイ・サービス」を統合 … 【目的】 ERP事業の強化                     </div>	●		
	クレスコワイヤレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 代理店や半導体メーカーとの協業体制を構築するも、案件のボリュームが不足</li> <li>◆ 量産案件が獲得できず</li> <li>◆ RFID事業は、一部事業譲渡し、体制見直しを実施</li> <li>◆ 【課題】ビーコン案件の拡大とブリッジ端末の製品化によるIoT機器ビジネスへの参入</li> </ul>		●	●
	アイオス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第1四半期先送り案件のスタート、トラブルプロジェクト解消により稼働率向上</li> <li>◆ 第1四半期のリカバリー施策（プロジェクト開始遅延、中断リスクの回避）を実行</li> <li>◆ 【課題】営業活動の更なる強化、「バイ・ザ・ウェイ」を活用した新分野開拓</li> </ul>	●		
	クレスコ九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ グループ内連携強化によりニアショア開発案件が堅調に推移し、増収増益</li> <li>◆ 金融関連の案件が拡大。待機要員の解消や作業効率の改善が、収益向上に寄与</li> <li>◆ 【課題】地場顧客の開拓、ニアショアの取引先拡大、売上の単価アップ</li> </ul>	●		
	クレスコ北陸	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 売上高は、前年比減収となったが、営業強化、効率化策が奏功し、増益へ</li> <li>◆ 主要顧客の受注は回復傾向</li> <li>◆ 不採算プロジェクトゼロ、収益性は改善</li> <li>◆ 【課題】CAE事業のリスク分散、地場顧客開拓、産学官連携ビジネスの実装化</li> </ul>	●		

			セグメント		
			ソフト	組込み	製品
	科礼斯軟件(上海)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 8月29日付のプレスリリースで「解散および清算に関するお知らせ」を発表</li> <li>◆ 中国市場の縮小等による業績低迷が主要因</li> <li>◆ 【課題】2017年3月末を目途としたクロージング手続き</li> </ul>		●	
	シースリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 電力システムの大規模プロジェクトが継続し、業績（売上、利益）に寄与</li> <li>◆ 鉄道制御系システムは、請負作業が継続</li> <li>◆ セキュア開発、医療分野も改善傾向</li> <li>◆ 【課題】人材の確保と開発体制強化、新規分野への進出、新規顧客の開拓</li> </ul>		●	
	クリエイティブジャパン	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 主力の日立グループからの受注が、堅調に推移</li> <li>◆ 新規顧客4社獲得</li> <li>◆ ネットワーク構築事業が堅調、PLMソリューションも進展し、営業利益2桁成長</li> <li>◆ 【課題】人材の確保・育成、IBM製品スキルの習得、独自サービス開発</li> </ul>	●		
	メディア・マジック	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ リカバリー施策の一環である営業体制の強化が奏功、デザイン関連の受注改善</li> <li>◆ クレスコグループとの協業ビジネス（先端技術関連）をスタート</li> <li>◆ 【課題】開発要員の確保、品質管理の強化、人材のスキルアップ</li> </ul>		●	
<b>エヌシステム</b>	エヌシステム	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 【課題】プロダクト商品の販売拡大 … 「クリアート」「バスドットコム・レインボー」</li> </ul> <div style="border: 1px solid #e91e63; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>2016年9月1日付で子会社化</p> <p>【主な事業内容】 旅行関連システムの開発・コンサルティング</p> <p>【目的】 クレスコの旅行システム開発と連携し、 需要拡大が期待できる旅行業向けシステム開発の強化</p> </div>		●	

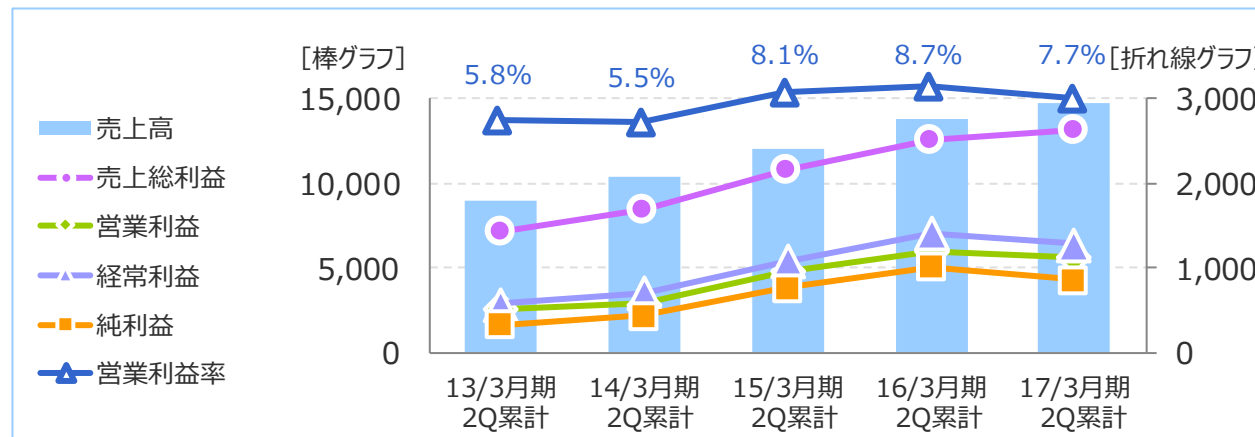


[単位：百万円未満切捨]

- 競争力に直結するイノベーションを志向する企業の戦略的なIT投資の勢いは衰えず、デジタル革命の潮流が後押し
- リカバリー施策を行うも、事業分野別、子会社毎の業績は、まだら模様の状況を払拭できず、前年比増収減益

2 Q 累 計		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	前年 同期比	対上期 消化率	2017年3月期 <2016/5/9公表予想>	前年 同期比
		売上高	11,999	13,819	<b>14,740</b>	<b>106.7%</b>	<b>96.9%</b>	15,220
売上総利益	2,149 (17.9%)	2,511 (18.2%)	<b>2,631 (17.8%)</b>	<b>104.7%</b>				
営業利益	969 (8.1%)	1,208 (8.7%)	<b>1,131 (7.7%)</b>	<b>93.6%</b>	<b>89.8%</b>	1,260 (8.3%)	104.3%	
経常利益	1,080 (9.0%)	1,410 (10.2%)	<b>1,284 (8.7%)</b>	<b>91.1%</b>	<b>91.7%</b>	1,400 (9.2%)	99.3%	
純利益	773 (6.4%)	1,017 (7.4%)	<b>867 (5.9%)</b>	<b>85.3%</b>	<b>91.4%</b>	949 (6.2%)	93.3%	
EPS 円/株	73.38	91.54	<b>76.64</b>			83.72		

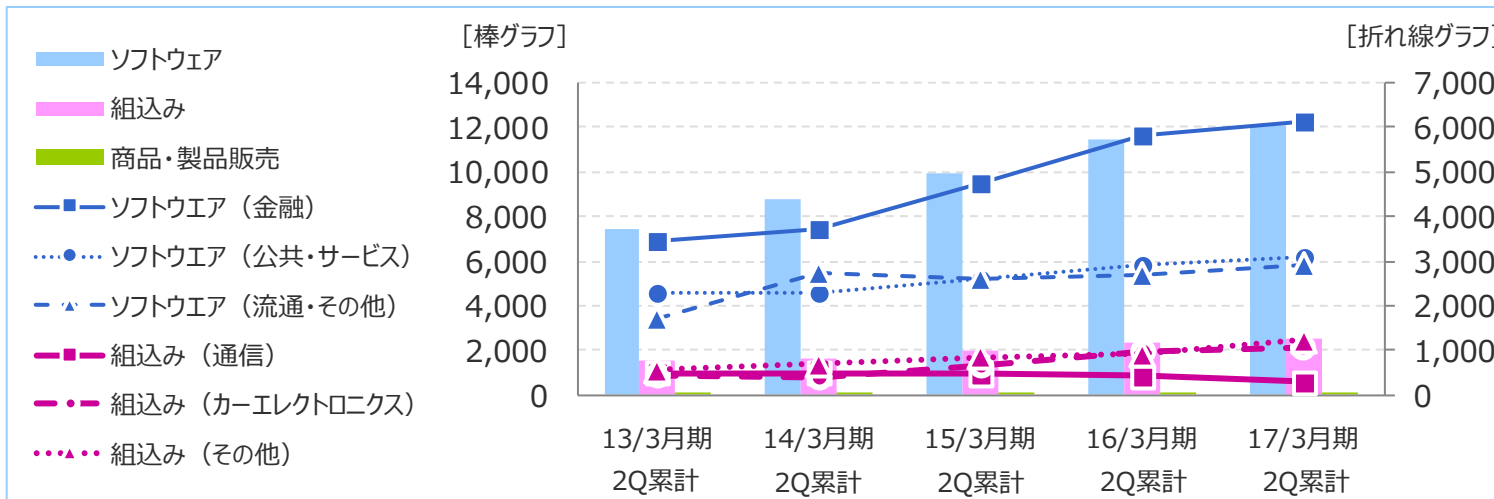
【注】 ( ) 内の数字は各々の利益率を表します。  
 【注】 「純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」です。



[単位：百万円未満切捨]

- ソフトウェアは、金融、公共・サービス関連(人材、旅行)が業績を牽引
- 組込み型は、「その他」のデジタル情報家電、医療機器(マルチメディア)、制御系が堅調に推移

セグメント		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	前年同期比	
		2 Q 累 計	ソフトウェア	金融関連	4,752	5,835
		公共・サービス	2,584	2,912	<b>3,075</b>	<b>105.6%</b>
		流通・その他	2,619	2,680	<b>2,927</b>	<b>109.2%</b>
		計	9,956	11,429	<b>12,115</b>	<b>106.0%</b>
	組込み型	通信システム	483	436	<b>288</b>	<b>66.0%</b>
		カーエレクトロニクス	666	975	<b>1,046</b>	<b>107.2%</b>
		その他	847	928	<b>1,244</b>	<b>134.0%</b>
		計	1,997	2,340	<b>2,578</b>	<b>110.2%</b>
	商品・製品販売	45	49	<b>46</b>	<b>93.4%</b>	
	<b>全計</b>	<b>11,999</b>	<b>13,819</b>	<b>14,740</b>	<b>106.7%</b>	

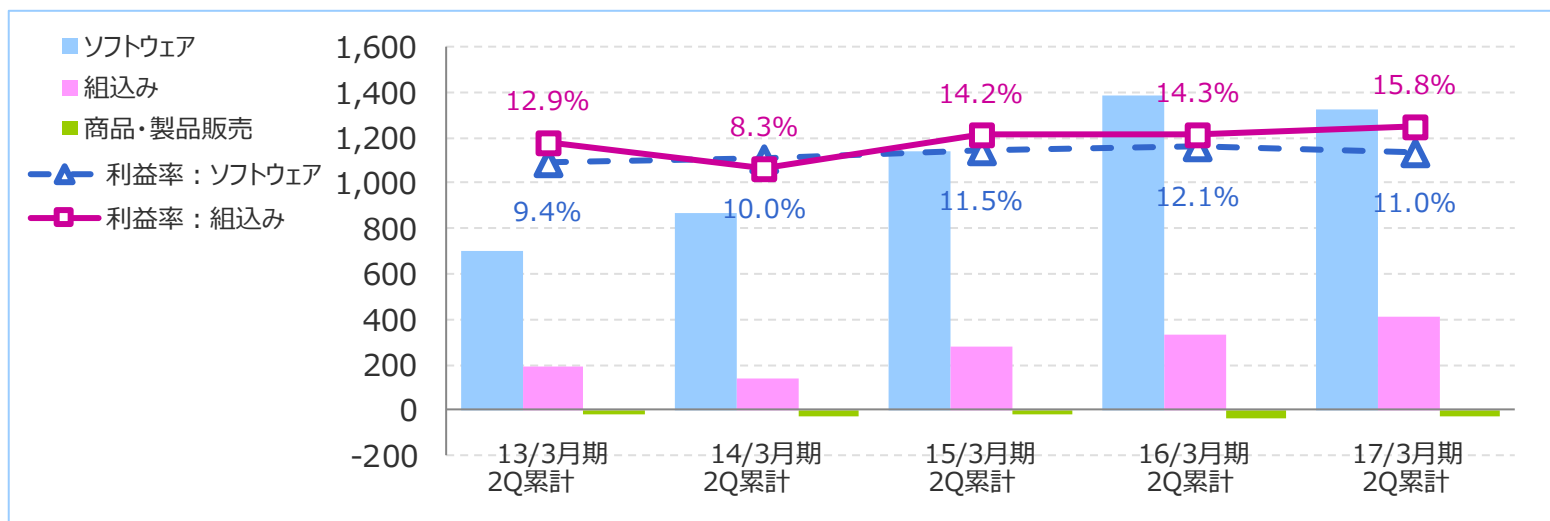


[単位：百万円未満切捨]

- ソフトウェアは、一部不採算案件が発生するも稼働率が改善傾向
- 組込み型は、車載関連およびデジタル家電関連が安定稼働

2 Q 累 計		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		前年同期比
	ソフトウェア	1,140	(11.5%)	1,387	(12.1%)	<b>1,328</b>	<b>(11.0%)</b>	<b>95.7%</b>
	組込み型	283	(14.2%)	333	(14.3%)	<b>407</b>	<b>(15.8%)</b>	<b>122.0%</b>
	商品・製品販売	▲17	(-)	▲33	(-)	▲26	(-)	-
	<b>全計</b>	<b>1,406</b>		<b>1,687</b>		<b>1,709</b>		<b>101.3%</b>

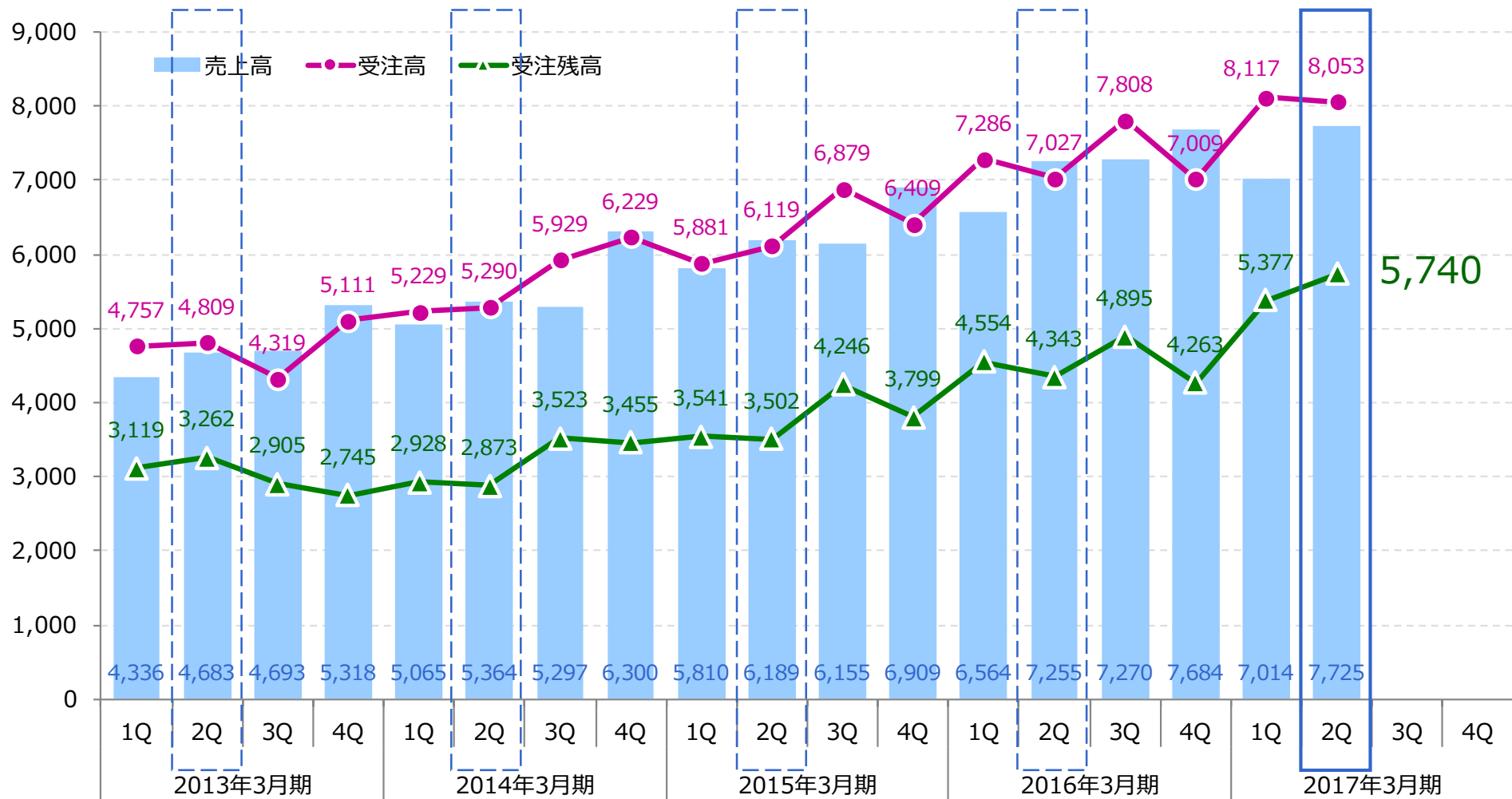
【注】 ( ) 内の数字は各々の利益率を表します。



■ 受注は、デジタル革命（デジタルトランスフォーメーション）の潮流を捉え、各社の営業力強化も奏功

■ 受注高 : 前年同期比 114.6%  
 受注残高 : 前年同期比 132.2%

[単位：百万円未満切捨]



---

## ③ 2017年3月期の見通し

[単位：百万円未満切捨]

- 当初(5月9日)に発表した業績予想から変更なし
- 売上高、営業利益、純利益の年平均成長率10%を目指す

通期	2016年3月期				2017年3月期	
	<2015/10/26公表予想>	前年 同期比	実績	前年 同期比	<2016/5/9公表予想>	前年 同期比
	売上高	27,600	110.1%	28,775	114.8%	<b>31,100</b>
売上総利益			5,231 (18.2%)	116.0%		
営業利益	2,300 (8.3%)	114.3%	2,484 (8.6%)	123.4%	<b>2,750 (8.8%)</b>	<b>110.7%</b>
経常利益	2,600 (9.4%)	116.0%	2,857 (9.9%)	127.5%	<b>3,000 (9.6%)</b>	<b>105.0%</b>
純利益	1,780 (6.4%)	126.6%	1,705 (5.9%)	121.3%	<b>2,000 (6.4%)</b>	<b>117.3%</b>
EPS 円/株	158.07		152.26		<b>176.35</b>	

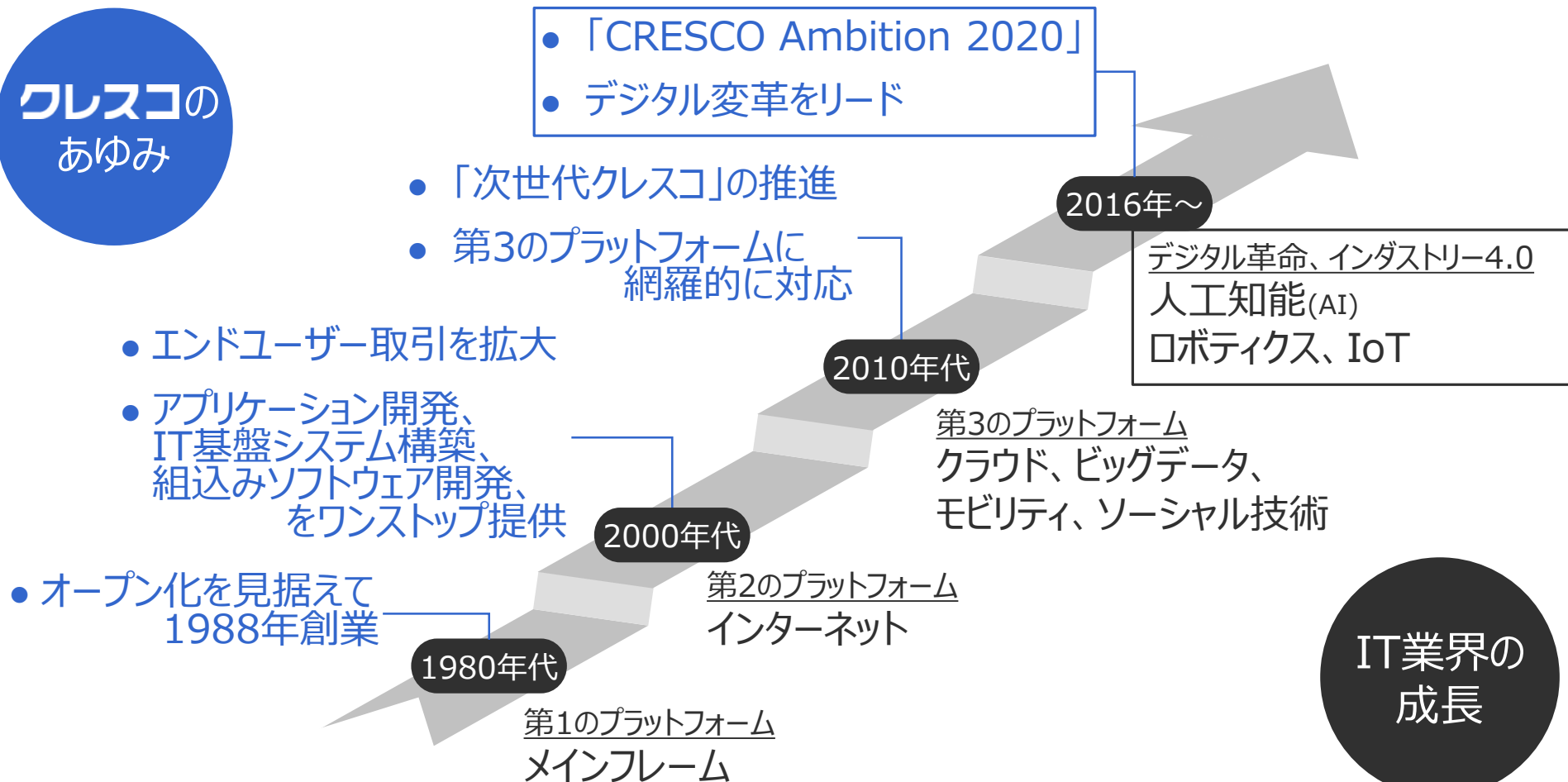
【注】 ( ) 内の数字は各々の利益率を表します。

【注】 「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

- 先行きの不透明感が拭いきれず、国内景気に悪影響を及ぼす懸念事項は多々ありますが、循環的な回復を続ける企業業績を踏まえると、業界や業種で格差は生じるものの、今後の需要の動向は、企業の業績改善努力や良好な雇用情勢、政府の景気対策等が下支えとなり、緩やかながら拡大傾向になる、と予測しております。
- 各種動向調査では、依然下振れリスクは拭いきれないものの、概ね、経済対策や官公需要が下支えとなり、現状の踊り場から緩やかに回復すると予測するものもございますが、  
当社企業グループの顧客動向や営業状況から鑑み、  
新たな価値の創出や競争力強化を目指すIT投資（いわゆる「攻めのIT経営」）は、当面継続すると考えております。
- IT投資は、  
クラウドやモバイル端末（スマートフォンやタブレットPC等）を利活用したシステムへの移行、  
ITシステム基盤の統合・再構築、ビッグデータの分析と活用、  
ソーシャル・テクノロジーのビジネス活用など、  
第3のプラットフォームといわれる  
「クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術」に関連する領域の成長が、  
「モノのインターネット（Internet of Things : IoT）」、スマートロボット、AI（人工知能）といった  
次世代トレンドと相まって加速すると予測しております。

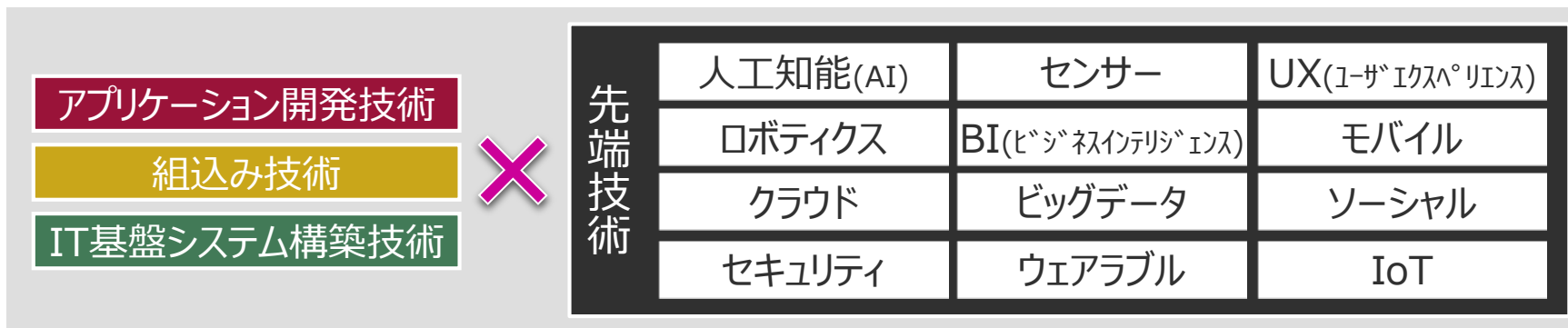
- ITプラットフォームの変化にあわせてサービスのご提供ができるよう、「技術研究所」が**数年先を見据えて、先端技術に取り組んでいます。**

## クレスコの あゆみ





- 3つのコア技術と先端技術の**組み合わせ**で、お客様のビジネスニーズを満たします。



共同研究

協業

M&A

グループ連携



※ 一部を除き、商品名は当社の商標または登録商標です。  
 ※「Watson」「Pepper」「Sota」は、各社の商標または登録商標です。

- 医療、エネルギー、ロボットの3業種が、特に市場にイノベーションをもたらす分野になると考えており、主力のソフトウェア開発関連事業の他、先端技術関連事業の当面の成長を見込んでおります。
- マイナンバー制度に伴う個人情報保護体制の強化や標的型攻撃に代表される高度なサイバー攻撃、悪意ある従業員による内部からの情報漏洩などの不祥事が多発する現状を背景に、企業のセキュリティに対する意識が高まっており、プラットフォーム関連事業（クラウドを含む基盤システムやネットワーク等）にとって新たなビジネスチャンスになると認識しております。
- クレスコグループがご提供するサービスは幅広い技術領域を有しており、世の中のトレンドを概ね取り込めるポジションにあり、あらゆる企業や団体、産業からデジタル変革のパートナーとして期待されております。
- 事業の柱であるソフトウェア開発事業（ビジネス系ソフトウェア、組込型ソフトウェア）において、技術および品質の面から更なる強化を図ってまいります。
- 先端技術を積極的に取込み、顧客の成長に寄与するサービスおよびソリューションを充実させ、社会に貢献してまいります。

### 株主 還元方針

- 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。特段の株主優待は行っていません。
- 配当に関しましては、当社（単体）の経常利益を基に特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。

---

## 【ご参考】

---

# 連結対象子会社数の変遷

	2013年3月期				2014年3月期				2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション <span style="color: #800080;">【※5】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
ワイヤステクノロジー <span style="color: #800080;">【※2】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコ・コミュニケーションズ <span style="color: #800080;">【※1】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコ・アイディー <span style="color: #800080;">【※2】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコワイヤレス <span style="color: #800080;">【※2】</span>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●		
アイオス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クレスコ九州	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
科礼斯軟件（上海）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
シーフリー	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クリエイティブジャパン	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
エス・アイ・サービス <span style="color: #800080;">【※3】【※5】</span>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	/	/	/	/
メディア・マジック <span style="color: #800080;">【※4】</span>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●		
エヌシステム <span style="color: #800080;">【※6】</span>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●		
<b>子会社総数</b>	<b>8</b>	<b>8</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>10</b>		

【※1】 2014年1月末付にて、クレスコグループとの資本関係を解消（全株式譲渡）

【※2】 2015年4月1日付で「ワイヤステクノロジー」は「クレスコ・アイディー」を統合し、「クレスコワイヤレス」に社名を変更

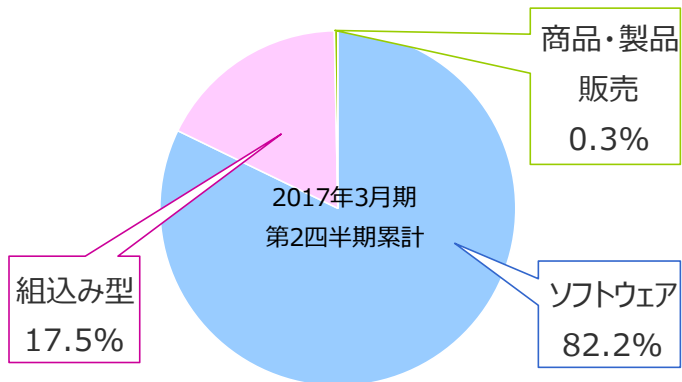
【※3】 2015年4月1日付で「(株)エス・アイ・サービス」を子会社化

【※4】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化

【※5】 2016年4月1日付で「クレスコ・イー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合

【※6】 2016年9月1日付で「(株)エヌシステム」を子会社化

&lt;セグメント別の売上高比率&gt;



セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスアプリケーション開発</li> <li>・IT基盤システム構築</li> <li>・オリジナル製品・サービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融 (銀行、保険、カード、証券 etc.)</li> <li>・公共・サービス (航空、鉄道、電力、放送、医療、旅行、人材ビジネス etc.)</li> <li>・流通・その他 (運輸、小売 etc.)</li> </ul>
組込型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組込型ソフトウェア開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信システム (携帯情報端末 etc.)</li> <li>・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.)</li> <li>・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)</li> </ul>
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売</li> </ul>	

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【IRのお問合せ】 広報IR推進室  
Mail : [ir@cresco.co.jp](mailto:ir@cresco.co.jp)  
TEL : 03-5769-8058